

【用語】孝経—儒教の教典の経書、孔子が孝道について述べたもの
笠石—石材の構造物の上にかぶせる石、冠石 さしわたし—差渡、直
徑 末代之後記—後生の記録 信州高遠—長野県高遠町 石工—いし
く、せっこう、石の切り出しまたは細工をする職人 広馬場—北群馬
郡榛東村

【解説】上野国には隣接する越後・信濃・武蔵・下野国などから、か
なりの旅稼ぎ職人が流入していた。なかでも信濃国高遠領の石工は宝
篋きょういんちゆう印塔や常夜燈などの石造物を数多く残したことで知られる。高遠の
石工は、領主の奨励もあって他国へ旅稼ぎに出る者が多かった。はじ
めは冬季の作間稼ぎであったのが、次第に年間を通して旅稼ぎするよ
うになったといわれる。稼ぎ先は上野・甲斐・武蔵・駿河・美濃・相
模・三河国などで、なかでも上野と甲斐に集中していたという。

この文書は、高遠石工の太蔵（碑文では信州伊奈郡御堂垣外守屋多蔵）が
孝経碑の細工を金一四両で請け負った際の証文である。発注者は、碑
文の「古文孝経」を書いた儒者の富沢良貞で、彼は広馬場村で私塾を
開校していた。この孝経碑は文政二年（一八一九）に完成し、現在も天
神山に保存されているが、皿状の台石の上に古文孝経の碑文を刻んだ
角柱の本体があり、その上に笠石が乗っている。請負人の太蔵は、後
生に残すものであるから細工には念を入れ、文字彫刻も鮮明にするこ
とを誓約している。孝経碑は現在、榛東村の文化財に指定されており、
富沢良貞の事績とともに高遠石工の優れた技術を伝えている。